

# 沖繩周辺重要水産資源調査(要約)

喜屋武 俊彦

本調査は国庫委託を受けて昭和47年度から実施しており、詳細は「昭和60年度沖繩周辺重要水産資源調査結果報告書」として報告した。

## 1. 目的および内容

本県周辺海域の主要魚種であるカツオ・タカサゴ類・アイゴ類について漁獲物を購入し、それらを通じて成長と年令、成熟、産卵、系統群等の知見を得るため個体生態調査を実施し、また漁獲量の変動を知るため水揚げ地における漁獲量調査を実施し、資源量等を把握してこれらを対象とする漁業の管理および合理的生産体系の確立をはかる。

糸満でのひき縄は前年に比べて有漁日数、のべ水揚げ隻数、総水揚げ量とも大巾に増加し、1日1隻当り水揚げ量は若干増加した。これは浮魚礁(パヤオ)の集魚効果によるものであった。

県漁連市場での追い込み網によるタカサゴ類の水揚げ量は、前年に比べて増加したが、1日1統当り水揚げ量は減少した。月別には8・9月を除いた月で前年より増加した。

勝連漁協に水揚げされたアイゴ類は前年に比べて減少した。

主要3市場における主要魚種4種の水揚げ量は、ハマダイは県漁連市場、那覇地区漁協市場、糸満漁協市場とも減少した。ハマフエフキは県漁連市場、那覇地区漁協市場で前年並、糸満漁協市場で減少した。スジアラは県漁連市場、糸満漁協市場で減少、那覇地区漁協市場で増加した。アオリイカは県漁連市場、那覇地区漁協市場で前年並、糸満漁協市場で増加した。

なおこの調査を進めるにあたり、標本魚の購入、セリ帳の集計に便宜を与えて下さった各関係漁協に厚く御礼を述べたい。

## 2. 要 約

- (1) 糸満のひき縄、県漁連のタカサゴ類、勝連のアイゴ類の水揚げ量調査を実施した。タカサゴ類とシモフリアイゴについては魚体を購入して個体生態調査(体重、体長、胃内容物、生殖線調査)と市場での体長測定調査を実施した。
- (2) 関連調査として県漁連、那覇地区漁協、糸満漁協の3市場のセリ帳より、ハマダイ・ハマフエフキ・スジアラ・アオリイカの水揚げ量調査を実施した。
- (3) 糸満のひき縄の総水揚げ量は191.7トン、前年比4.8倍で大巾に増加、1日1隻当り水揚げ量は74kg、前年比115%で若干増加した。魚種別水揚げ量をみると、カツオ類は21.4トンで前年の10.7倍、マグロ類は81.3トンで前年の25.2倍、サワラ類は13.4トンで前年の2.9倍、シイラは15.1トンで前年の16.3倍、カジキ類は58.7トンで前年の2.1倍とそれぞれ非常に大巾に増加した。
- (4) 県漁連市場に水揚げされたタカサゴ類は637トン、前年比132%で増加、1日1統当り水揚げ量は776kg、前年比86%で減少した。

- (5) 購入魚によるタカサゴの体長・体重測定を年9回、396尾、胃内容物・生殖腺調査を180尾、市場での体長測定を8回、2,991尾実施した。生殖腺指数のピークは5月にみられた。ニセタカサゴの体長・体重測定を年9回、193尾、胃内容物・生殖腺調査を155尾、市場での体長測定を8回、2,410尾実施した。生殖腺指数のピークは4月にみられた。クマササハナムロの体長・体重測定を年7回、166尾、胃内容物・生殖腺調査を127尾、市場での体長測定を年6回、1,349尾実施した。生殖腺指数のピークは4月にみられた。
- (6) 勝連漁協に水揚げされたシモフリアイゴは11.0トン、前年比82%で減少した。1日1隻当り水揚げ量は6.2kgで前年より減少した。
- (7) シモフリアイゴの体長・体重測定を年14回、508尾、胃内容物・生殖腺調査を280尾、市場での体長測定を年22回、2,450尾実施した。生殖腺指数のピークは5月にみられた。
- (8) ハマダイの県漁連における水揚げ量は174トン、前年度81%で減少、1日1隻当り水揚げ量は69.7kgで若干減少した。水揚げ量のピークは11月にみられた。那覇地区漁協の水揚げ量は86トン、前年比90%で若干減少、1日1隻当り水揚げ量は121.3kgで前年並であった。水揚げ量のピークは5月にみられた。糸満漁協の水揚げ量は7トン、前年比77%で減少、1日1隻当り水揚げ量は29.9kgで増加した。水揚げ量のピークは9月にみられた。
- (9) ハマフエフキの県漁連における水揚げ量は36トン、前年比103%で前年並、1日1隻当り水揚げ量は9.3kgで前年並であった。水揚げ量のピークは10月にみられた。那覇地区漁協の水揚げ量は5トン、前年比107%で前年並、1日1隻当り水揚げ量は7.0kgで減少した。水揚げ量のピークは7月にみられた。糸満漁協の水揚げ量は17トン、前年比73%で減少、1日1隻当り水揚げ量は13.4kgで減少した。水揚げ量のピークは5月にみられた。
- (10) スジアラの県漁連における水揚げ量は50トン、前年比82%で減少、1日1隻当り水揚げ量は8.0kgで前年並であった。水揚げ量のピークは9月にみられた。那覇地区漁協の水揚げ量は8トン、前年比115%で増加、1日1隻当り水揚げ量は7.0kgで減少した。水揚げ量のピークは9月にみられた。糸満漁協の水揚げ量は10トン、前年比68%で減少、1日1隻当り水揚げ量は10.2kgで減少した。水揚げ量のピークは11月にみられた。
- (11) アオリイカの県漁連における水揚げ量は67トン、前年比100%で前年並、1日1隻当り水揚げ量は27.3kgで若干増加した。水揚げ量のピークは10～12月にみられた。那覇地区漁協の水揚げ量は5トン、前年比106%で前年並、1日1隻当り水揚げ量は6.4kgで前年並であった。水揚げ量のピークは2月にみられた。糸満漁協の水揚げ量は8トン、前年比169%で大巾に増加、1日1隻当り水揚げ量は6.5kgで増加した。水揚げ量のピークは5月にみられた。